

生家保存 修復を願う



眞辺 慶一議員

問 生家修復に対する 思いを聞く

森田正馬生家は、住宅として使用されていたものを、旧野市町が顕彰・保存するため89年に買収された。

本年は、没後80年に当たり、7月15日、のいちふれあいセンターにて、主催・森田正馬没後80年記念事業会、共催・高知県、香南市、高知新聞社、日本森田療法学会はじめ多くの共催者。後援・高知市、高知県医師会はじめ多くの後援者を得、330人の市民が集まり、墓前祭が行われた。

また、午後には県民文化ホールにて約1千人の人が集まり、記念講演会が行われた。

没後80年の墓前祭、記念講演を終えた今、市長の生家修復に対する考え方を問う。

答 早急に検討し決定

清藤 市長

没後80年記念事業を盛大に開催することができた。森田療法への多くの人の関心や、ニーズがあつたからだと思う。

そして今、多くの団体の協力が得られる状況なので、生家保存の具体的な位置づけや使い方を早急に検討し決めていく。



兎田 森田正馬生家(玄関)

問 心の健康都市 宣言を

この香南市を心の健康都市と宣言し、日々の営みの中に、心の健康理念を織り込み、激しい怒りや躁鬱症、恐怖症、強迫症、不安症、不登校、引きこもりなど

答 業績活用が 市の務め

清藤 市長

どの少ない、できればない。そして日々の暮らし、日常の業務や事業の中に達成感や多くの幸福感を得られる、そんな香南市に向かってほしいと願うが、市長の考えは。

現代社会において、うつ病対策は大きな課題で、この森田療法を活かしながら行政施策として反映していくことは、ぜひやらなければならぬ。

本市は森田正馬の生誕地なので中心となって取り組んでいきたい。

具体的な方法は勘案中である。専門的な関係者の意見・アドバイスをいただき施策、政策として具体策を検討していく。森田療法は、80年たった今でも脚光を浴びている。

そんな偉人を本市が輩出したことは郷土の誇りである。森田療法をはじめとする森田正馬の業績を活用することが本市の務めである。

問 生家の現状 どう認識

生家は建築後相当の年月がたっており、経年劣化が進み、



兎田 森田正馬生家(庭から)

答 修繕に取り組む

清藤 市長

生家の保存は、シンボリックな位置づけをする必要がある。今の状況を一度正確に把握し、必要な修繕に取り組む。

所管が教育委員会なので、関係者で協議をしてほしい。

答 地域の誇り

田中 生涯学習課長

森田正馬は、野市町兎田に生まれた精神医学者で、地域の誇りだと考えている。

生家は、雨漏り、樋の破損など修繕は行ってきたが、行き届いていないのは認識している。

今後は、森田正馬生家保存を願う会などと修繕・保存が続けられるよう、利活用計画など含め話し合いを進めていく。

森田博士のプロフィール



森田正馬博士

森田正馬博士は、明治7年1月18日、富家村兎田で生まれた。明治36年に東京帝国大学医学部精神科を卒業後、東京慈恵会医学専門学校(現・慈恵医大)の教授となり、以後35年間、病

院精神医療の体制づくりと診療に尽力した。

また、東京根岸精神病院長を歴任し、昭和13年4月12日、肺結核症のため64歳で亡くなった。

兎田にあった「森田館」は、森田博士が当時の富家村に寄贈したもので、昭和11年4月4日に完成、工費は、当時の金額で4千円であった。

現在は、野市町土佐風保存同好会が使用している。